

やまなしの福祉

2023 No.370

秋

AUTUMN

- 〈P02〉 特集 **地域共生社会**
- 〈P05〉 **～人とのつながりと地域づくり～**
- 〈P06〉 テクノロジーを活用した業務効率化モデル事業
／講座・イベントのご案内
- 〈P07〉 「ゆるゆるミーティング」
「保育の魅力発信・交流会 2023」

- 〈P08〉 いきいき山梨
ねんりんピック 2023
山梨県シルバー作品展・
- 〈P09〉 シルバー俳句大会 作品紹介
- 〈P10〉 県社協賛助会員のご紹介
- 〈P12〉 善意をありがとう ほか

特集

みんなの暮らしを織り交ぜ“地域で一緒に生きる”

「ソーシャルハウス宝島」



特集

Special
future

テーマ

地域共生社会

～人とのつながりと地域づくり～

みんなの暮らしを織り交ぜ“地域で一緒に生きる”

「ソーシャルハウス宝島」

Social House Takarajima

日本は、本格的な少子高齢化と人口減少時代を迎えようとしています。高齢者層を中心に単独世帯が増え、1世帯あたりの人員は減少傾向にあります。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大は、ライフスタイルの変化に大きな影響を与えました。

こうした背景により、地域や家族間のつながりの希薄化や孤独・孤立が社会問題となる中、地域の特性を生かした「地方創生」による政策、「こども食堂」といった居場所づくりなど、さまざまな取り組みが行われています。

本号は、地域の中に“みんなと一緒に生きる”場づくりを通じて、地域課題の解決に取り組む「ソーシャルハウス宝島」の活動を紹介し、つながりから生まれる“新しい地域共生社会のカタチ”のヒントを探ります。



宝島のはじまり

The beginning of Takarajima

富士山を近くに臨むことのできる富士吉田市内。昔ながらの住宅地の一角にあった空き家を“住み開き*1”し、地域の人々の交流の場として開放しているのが「ソーシャルハウス宝島」です。

運営をしている、南アルプス市出身の上田潤さんは、大学進学を機に上京し、卒業後は県外のベンチャー企業に就職しました。数字や業績を追う日々、20代で病を患い生活は一変。闘病生活中に周りのサポートを受けたことで、今までの人生観ガラッと変わったといいます。

「闘病する中で、いつ誰に何が起こってもおかしくない」と痛感しました。自分自身や命と向き合う時

闘病、コロナ禍…。

原体験から求めた暮らしの豊かさ

間ができたおかげで、今後の人生・生き方について考えるいい機会になりました」。

そんな自身の経験に加え、コロナ禍によって様変わりする世の中を目の当たりにし、暮らしの豊かさや安心・安全な暮らしについて、より深く考えるようになったそうです。同じ頃、地域おこし協力隊経験者と交流する機会があり、地域課題に真剣に取り組みながら地域づくりを楽しむ様子に感銘を受け、2020年10月に自身も富士吉田市の地域おこし協力隊として仲間入りしました。

*1 住み開き：自宅の一部を開放し、地域交流の場や教室など、コミュニケーションの場として公共化すること。



“みんなで一緒に生きる”ことで、地域課題の解決へ

着任当初、よく足を運んでいた介護予防施設で、高齢者のネガティブな発言が多いことにショックを受けた上田さん。最初に目を向けたのは高齢者福祉でした。

「当時から居場所づくりの必要性は感じていましたが、依然コロナ禍が続いていました。そこで、福祉制度ではカバーしきれない身近な困りごとのお手伝いをしようと、高齢者の生活支援を有償ボランティアとして請け負う“じばサポ”を始動しました。

買い物や病院受診の同行といった外出シーンから、草刈りや雪かきまで、依頼は日常生活のサポートがほとんど。対価をもらうだけの関係ではなく、“地域の孫”のような立ち位置でいます。社会的に孤立した高齢者につながることで、安心できる生活が生まれるんだと実感でき、自信にもなりました」。

しかし、対応を重ねる中、1対1の支援に限界を感じ始めます。「自分が支援をやめてしまえば、そこで

すべてが終わってしまうのではないかと。それでは、誰も報われない。社会の構造にアプローチできる、もっと大きな仕組みづくりが必要だと感じました。そのためには、福祉を住民活動に落とし込んでいかなければいけないと思い、県外の事例なども参考にたどり着いたのが、ソーシャルハウスでした」。

自助や公助ではなく、“みんなで一緒に生きる”という共助の暮らし方を目指し、自宅や職場・学校とも違う、『まちの第3の居場所』として生まれた宝島。集う人々は高齢者だけでなく、子ども、ひとり親、障がいのある人、時には、移住者や外国人、女子サッカー選手なども遊びに来て、ジャンルも世代も“ごちゃまぜ”。支援者としてではなく、隣人としてほどよい距離間を保ちながら、目の前にあるニーズに応え続けてきた上田さんの想いや取り組みは、地域の人々に次第に浸透していき、理解や共感へと変わってきました。

宝島の日常

Daily life on Takarajima

活動紹介

人と人が関わり合う力で生まれる
素敵な作用は、まさに“人つなぎの宝”。
そんな宝が眠る島として生まれた、
宝島の日常をご紹介します！

高齢者生活支援活動



地域おこし
協力隊の
活動

「じばサポ」

高齢者の生活支援を請け負う有償ボランティア。
身近に頼れる人がいない高齢者が増えていく状況
下で、制度だけではカバーしきれない小さな困り
ごとをサポートします。

引っ越し先を探している人の相談や引っ越しの
お手伝い、部屋の片づけ、買い物や病院受診への
同行、庭や畑の草刈り、雪かきなどの作業。伴侶
に先立たれて気を落としていた人の家にお茶を飲
みに行ったことも。

子どもたちと家族のもう一つの家



毎週
火・木曜日

「フリースクール」

不登校児やその家族の居場所・子育て支援の場と
して、宝島を開放。現在は、約12人の子どもが通っ
ています。

イラストレーターの講師による“お絵描き教室
OKOK”や小学生～中学生を対象にした学習支援“て
らこや宝島”なども実施し、子どもたちの可能性をサ
ポートしています。

今後は、子どもの選択肢がもっと増えるよう、教育
委員会や市内学習支援室、スクールソーシャルワー
カーとも連携を図るべく、思案を巡らせています。

誰でも気軽にどうぞ



毎週
水曜日

「地域サロン」

誰でも気軽に遊びに来られる「地域サロン」は、
主に、高齢者が集まり、昼ご飯を作って食べるこ
とが多いそう。お昼に向けてみんなでワイワイ調
理をして、午後のひとときを楽しく過ごします。
引っ越してきたばかりで友達がない、趣味を一
緒に楽しみたい、誰かと一緒にお茶を飲みたい…
そんな人も大歓迎！

他にも、富士五湖地域をホームとする女子サッ
カーチーム「FC ふじざくら」と協働し、月に一
度交流会をしたり、公式戦にシニアシートを用意
してもらい観戦したりと、スポーツと高齢者をつ
なぐ活動も行っています。

共助の場がある暮らし



「つながり付き住宅」

宝島と同じ大家さんが管理する隣接のアパート
を活用し、ひきこもりの方や生活困窮者が入居で
きる「つながり付き住宅」を構想中。

すぐに交流がなくとも、地域の目線があること
で安心につながったり、いずれは宝島を訪れる人と
助け合って生きていくコミュニティをつくり、共
助できる環境を想像しています。

宝島のこれから

The Future of Takarajima

2023年5月29日、上田さんは懇意にしていた心強い地域のプレーヤー（活動者）とともに、「一般社団法人ヒトナリ」を設立しました。社名のヒトナリには、“人と隣”をかけ、多様な人々の“ひととなり”と向き合いたいという想いを込めました。

「既存の福祉という枠にとらわれずに、地域課題に取り組む人や宝島のような場所が増えてほしいです。僕は、地域課題のほとんどが人と人とのつながりで、解決できるはずだと思っています。本来、みんな誰かと一緒にいたいと思っているだろうし、その方が楽しいじゃないですか！『ソーシャルハウス宝島』の活動を通じて、誰かが困っていたら自然に住民同士で助け合う、そんな地域づくりの仕掛けが広がっていくといいなと思っています」と嬉しそうに上田さんは笑います。

今後の展望を伺うと、地元飲食店と協働した高齢者の商いづくりや行政との連携の下、常設型の子どもの居場所開設、仕事や将来に悩む若者へ仲介で終わらない就労モデルの構築など、法人化したことでさらなる飛躍を目標に掲げ、「とにかく進んでいくしかない！」と力強く語ってくれました。

地域共生社会実現へ向かって舵を取ってきた「ソーシャルハウス宝島」の航海はまだまだ始まったばかり。ワクワクドキドキするような取り組みとともに、これからも躍進を続けていくことでしょう。



NAME

一般社団法人ヒトナリ 代表理事
ソーシャルハウス宝島 代表
富士吉田市地域おこし協力隊

上田 潤さん

jun ueda

PROFILE

南アルプス市出身。「人とのつながり」「福祉」をキーワードに、2020年に富士吉田市・地域おこし協力隊に着任。2022年「ソーシャルハウス宝島」開所、2023年「一般社団法人ヒトナリ」を設立。

「テクノロジーを活用した業務効率化モデル事業」を開始しました!

山梨県では、昨年度から「テクノロジーを活用した業務効率化モデル事業」を実施し、今年度からは介護福祉総合支援センター(介護支援センター)が、県から事業を受託しています。

この事業は、コンサルタント事業者である株式会社NTTデータ経営研究所の支援を受けながら、介護事業所でプロジェクトチームを結成し、業務の改善を図りながら、最適な介護ロボット・ICT機器を導入していきます。



今回は、事業所の職員の皆さんから日頃の業務の中で感じている課題を挙げてもらい、プロジェクトチームでその原因を深掘りする「因果関係図」を作成しました。今後は、テクノロジーの活用により業務改善が期待できる課題に焦点を当て、課題を解決するために必要な介護ロボット・ICT機器をいくつか選定し、ロボットの導入を進めていきます。

介護支援センターが 講座のご案内

受講料 無料

会場：山梨県福祉プラザ1階

介護従事者向け講座

介護ロボット導入セミナー

開催日／①11月8日(水)
②12月15日(金)

時間／10:00～15:00
定員／各30名

外国人介護人材受入セミナー②(オンライン)

開催日／11月22日(水)
時間／14:00～16:00
定員／50名



一般県民向け講座

チームでサポートする認知症の介護

開催日／11月1日(水)
時間／10:00～12:00
定員／30名

お年寄りの食事の特徴、栄養が偏らないための献立作り

開催日／11月2日(木)
時間／9:30～12:30
定員／30名

床ずれ予防のための介助の方法(衣類の着脱、ベッド上での介助の仕方)

開催日／11月7日(火)
時間／9:30～12:30
定員／30名

飲み込みの障がいに合わせた調理方法・トロミの付け方

開催日／11月10日(金)
時間／9:30～12:30
定員／30名

家で迎える終末期について考える

開催日／11月13日(月)
時間／10:00～12:00
定員／30名

認知症の方への接し方

開催日／11月17日(金)
時間／10:00～12:00
定員／30名

認知症介護の経験者のはなし～認知症を持つ家族を介護して～

開催日／①11月24日(金)
②12月12日(火)
③1月15日(月)

時間／10:00～12:30
定員／各15名

認知症サポーター養成講座

開催日／①12月8日(金)
②1月26日(金)

時間／10:00～12:00
定員／各30名
※同じ内容で開催。



問い合わせ・お申し込み先

介護福祉総合支援センター(介護支援センター)

TEL 055-254-8680

ホームページからお申し込みできます▶▶▶▶



Event information

「介護のしごと 魅力発信イベント」の開催について

※詳細は、後日ホームページにて掲載いたします。

介護福祉総合支援センターでは、高齢者や介護について理解を深めていただくとともに、介護の仕事について魅力ややりがいをアピールするためのイベントを開催します。ぜひご来場ください!

日時／令和5年11月14日(火) 14:00～16:00

場所／イオンモール甲府昭和(中巨摩郡昭和町飯喰1505-1)

内容／1階 さくら広場

- 健康に関するミニ講座
- 福祉用具、介護ロボット展示
- 認知症の疑似体験
- 介護に関するよろず相談
- 介護福祉士養成校の紹介等

3階 イオンホール

「介護のしごと就職フェア」



福祉人材センター/保育士・保育所支援センター

Exchange meeting

meeting
01

福祉・介護の職場で働く
職員さんの交流会
「ゆるゆるミーティング」



「ゆるゆるミーティング」は、令和3年度から始まった交流会で、今年度で3年目を迎えました。さまざまな福祉の職場で働く職員さんが施設や職種の垣根を超えて集い、何でも気軽にお話して仲間づくりをすることを目的としています。

第1回目は、9月7日(木)に都留市にあるワーキングスペース上谷交流センターで、福田六花さんをお招きして開催しました。また、都留市社会福祉協議会主催の「ボランティア入門講座～コーヒーボランティア編～」をきっかけに、団体として活動している『カフェキャマラード』の皆さんによるハンドドリップ実演の時間も設け、淹れていただいたコーヒーを参加者の皆さんで美味しくいただきました。ぜひ、職場に戻り利用者さんにふるまっていただけたらと思います。

参加者からは「職場に戻り、自分の仕事にどう活かせるか考えて行動していきたい」「この交流会をもっと広げて行きましょう」といった感想が寄せられました。なお、10月には市川三郷町、11月には甲府市でそれぞれ内容を変えて開催をします。ご興味のある方はぜひご参加ください。



交流会の詳細と
お申込みはこちらから！



meeting
02

保育の魅力を知り、理解を
深める「保育の魅力発信・
交流会 2023 inやまなし」



やまなし保育士・保育所支援センターでは、子どもと関わる仕事の魅力を知るとともに保育への理解を深めることを目的に、保育・福祉・教育を学ぶ学生と保育者が交流する場として、8月4日(金)、「保育の魅力発信・交流会 2023 inやまなし」(会場:山梨学院短期大学)を開催しました。

当日は、保育士・栄養士を目指す県内外の学生約280人が参加。県内の保育所や認定こども園、児童発達支援施設などからは、計57施設が参加し、施設の理念や保育の特徴などの説明をしていただきました。

参加した施設からは、「福祉の仕事を知ってもらえる良い機会になった」「学生と交流する機会がなかったので、参加することができて良かった」といった感想が寄せられました。



いきいき山梨

いきいき山梨ねんりんピック実行委員会(事務局:

「いきいき山梨ねんりんピック2023山梨県シルバー作品展・シルバー

山梨県 シルバー 作品展

日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門に、187点の作品が集まりました。

各部門で優秀賞に選ばれた作品は、10月28日から開催予定の「第35回全国健康福祉祭えひめ大会」の美術展に山梨県代表作品として出品されます。



日本画「ゲット!」
松井 典子 82歳 甲府市



日本画「春を待つ」
高橋 一彦 83歳 南部町



洋画「実」
宮崎 茂子 77歳 北杜市



洋画「北の老船“慶勝丸”」
田中 豊穂 80歳 北杜市



彫刻「能面 大癒見」
木下 政明 85歳 甲府市

彫刻「甲斐の鯪」
里吉 武仁 69歳 甲州市



工芸「花器」
遠藤 菊枝 88歳
市川三郷町



書「露香(ろこう)」
小林 光坡 80歳
大月市



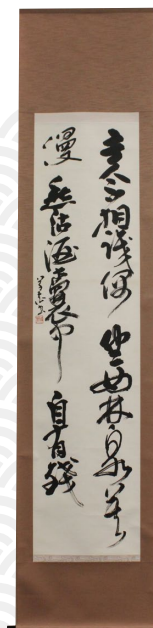
写真「群れ咲く山桜」
芦澤 一生 82歳
甲府市



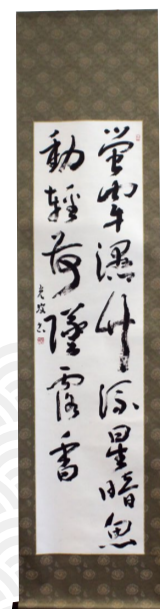
写真「笠雲彩光」
在原 英機 82歳
富士河口湖町



工芸「MOLA」
原口 貴美子 80歳
笛吹市



書「五言絶句」
鶴田 國恵 84歳
笛吹市



年齢は令和5年4月1日現在

ねんりんピック 2023

山梨県社会福祉協議会)は、6月16日から18日まで
俳句大会」を山梨県立図書館イベントスペースで開催しました。

山梨県シルバー俳句大会

「シルバー俳句大会」には、県内の60歳以上の人から、751句の作品が集まり、
5月12日に3人の選者(井上康明さん、保坂敏子さん、長田群青さん)により審査会を行い、
特選15句、秀作30句、佳作45句が決定しました。

審査員
井上 康明

冬ぬくし回向柱に幼の手

北杜市 小泉 優子 72歳

もう夫の行かれぬ山も眠りたり

西桂町 永田 梅子 79歳

屋号にて呼び合ふ村や野梅咲く

大月市 小林 勝子 79歳

残雪を消し行く雨の音なりし

富士吉田市 田辺 和代 81歳

菜の花や蛇笏の山河明るうす

市川三郷町 河西 五十鈴 85歳

審査員
保坂 敏子

作務衣着て梅のぐあいを見に行こう

甲州市 日原 満理子 72歳

小春日や少女のやうな土偶の目

南アルプス市 小松 和美 84歳

春暁や一炊の夢醒めやらす

甲府市 渡辺 優 86歳

言葉もう届かねば振る夏帽子

富士吉田市 渡辺 武人 79歳

山鳩が鳴いて始まる植木市

山梨市 丸山 敏章 71歳

審査員
長田 群青

ていねいに生きる日々有り返り花

富士河口湖町 梶原 道彦 80歳

菜の花や蛇笏の山河明るうす

市川三郷町 河西 五十鈴 85歳

山鳩が鳴いて始まる植木市

山梨市 丸山 敏章 71歳

まゆ玉や障子開ければ大菩薩

甲府市 白石 栄子 73歳

小春日や少女のやうな土偶の目

南アルプス市 小松 和美 84歳

年齢は令和5年6月16日現在。

県社協賛助会員のご紹介



本会は「人と人が支えあい、認め合いながら、だれもがその人らしく地域で安心して生活できる、福祉文化の創造」を経営理念に、社会福祉に関わる皆様と協力しながら地域福祉を推進するための事業に取り組んでいます。賛助会員制度は、本会の理念に賛同いただき、資金的な面から本会の活動をご支援いただくものです。会員の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、引き続き温かいご支援をお願いいたします。

※50音順・敬称略

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ✦ anlib株式会社 | ✦ 公益財団法人山梨厚生会 ハートフル塩山 |
| ✦ 学校法人帝京科学大学 帝京福祉専門学校 | ✦ 山日YBSグループ |
| ✦ 株式会社 オーツヤ測量 | ✦ 税理士法人中山・久保嶋会計 |
| ✦ 株式会社 オズプリンティング | ✦ 太平ビルサービス株式会社 甲府支店 |
| ✦ 株式会社 峡南堂印刷所 | ✦ 東洋羽毛首都圏販売株式会社 |
| ✦ 株式会社 サンカイゴ | ✦ 野村證券株式会社 |
| ✦ 株式会社 正直堂 | ✦ ParuPi株式会社 |
| ✦ 株式会社 松下製作所 | ✦ 富士急行株式会社 |
| ✦ 株式会社 諒和 | ✦ 山梨学院短期大学 |
| ✦ 株式会社 山梨毎日広告社 | ✦ 山梨信用金庫 |
| ✦ 株式会社 YSK e-com | ✦ 山梨中央銀行 |
| ✦ 関東自動車共済協同組合 山梨県支部 | ✦ 有限会社 平和プリント社 |

※令和5年度賛助会員47団体・個人4名のうち、掲載の承諾をいただいた24団体を掲載しています。

介護職員の介護技術・知識向上研修

【対象者：介護職員】

受講料
無料

QOLを高める 生活支援の視点

開催日／11月2日(木)
時間／9:30～12:30
会場／優和福祉専門学校
教室1-2
定員／20名

障がいのとらえ方と 生活支援・ICFを活用して

開催日／11月10日(金)
時間／13:30～16:30
会場／山梨県福祉プラザ
1階 研修室
定員／20名

自立支援に向けた 基礎介護技術

開催日／12月25日(月)
時間／9:30～12:30
会場／帝京福祉専門学校
3階 介護演習室
定員／20名

介護福祉総合支援センター(福祉人材センター)

問い合わせ・お申し込み先

TEL 055-254-9955

ホームページからも
お申し込みできます▶▶▶▶▶



ご利用している福祉サービスについて

「こうしてほしい」
と思っていないませんか？

「なおしてほしい」
と望んでいませんか？

山梨県福祉サービス運営適正化委員会が
疑問・要望などのご相談に応じます。

山梨県福祉サービス運営適正化委員会

住所 甲府市北新1-2-12 県福祉プラザ4階
受付時間 平日 午前8時30分～午後5時15分
電話 055-220-3030

令和5年度

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!



ホームページでも内容を紹介しています
https://www.fukushihoken.co.jp



社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償

(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、
動産総合保険、費用・利益保険)

1 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間1年

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故に対応	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等の各種費用	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

- オプション1 ●訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ●施設の医療事故補償
 - 医務室の医療事故補償
 - 看護職の賠償責任補償
- オプション3 ●施設の借用不動産賠償事故補償
- オプション4 ●クレーム対応サポート補償
- オプション5 ●施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

- 2 個人情報漏えい対応補償 3 施設の什器・備品損害補償

プラン2 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

- 1 入所型施設利用者の傷害事故補償
- 2 通所型施設利用者の傷害事故補償
- 3 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償



プラン3 職員等の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- 1 職員の労災上乗せ補償
使用者賠償責任補償
- 2 役員・職員の傷害事故補償
- 3 役員・職員の感染症罹患事故補償
- 4 雇用慣行賠償補償



プラン4 法人役員等の補償

(役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL : 03(3349)5137
受付時間：平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL : 03(3581)4667
受付時間：平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

善意をありがとう Thank you for your good will.

山梨中央銀行様 食料品のご寄付



山梨中央銀行（雨宮 英夫総務部長）様より、食料品のご寄付をいただきました。

山梨中央銀行では、「山梨中央銀行グループSDGs宣言」のもと、地域全体でのSDGs達成に向けた持続可能な地域社会づくりの一環として、就学援助等を受けられているご家庭のお子様への支援等に取り組んでいます。

今般、「第2回 山梨中銀フードドライブ」を実施し、山梨中央銀行グループ役職員から計405Kgの食料品をいただきました。ありがとうございました。

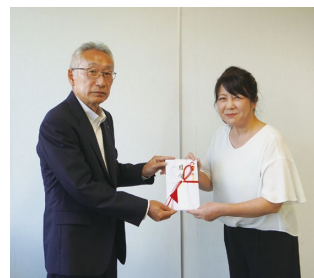
一般社団法人山梨県法人会連合会様 公益社団法人甲府法人会様 タオル等贈呈式



一般社団法人山梨県法人会連合会様、公益社団法人甲府法人会様（いずれも関光良会長）より、会員法人の皆様からお寄せいただいたタオル、石けん、ティッシュ、使用済み切手等を沢山寄贈いただきました。

お預かりした寄贈品は、福祉施設で活用いただきます。たくさんの善意をありがとうございました。

KDDI株式会社様 寄付金贈呈式



KDDI株式会社（南関東総支社長 大可 昌明）様より、山梨ともしび基金へ、2022年度にKDDI社員様が行った社会貢献活動（KDDI+αプロジェクト）のポイントを金額換算した50,000円をご寄付いただきました。

いただきましたご寄付は、民間福祉活動の助成を行う「山梨ともしび基金」で大切に活用させていただきます。ありがとうございました。

NEWS

介護福祉総合支援センター オープニング セレモニーのご報告



介護福祉総合支援センター（介護支援センター・福祉人材センター）の開所式が去る7月20日に開催されました。式では、長田副知事の挨拶、県老人福祉施設協議会の石井会長から祝辞をいただき、テープカットで開所を祝いました。

介護福祉総合支援センターでは、福祉・介護の人材確保・定着の取り組みや家族介護者支援のほか、新たに介護現場の負担軽減への取り組み支援を行っています。

読者アンケートのお願い

今後の広報誌づくりの参考にさせていただくため、アンケートにご協力をお願いいたします。

QRコードよりご回答ください。



広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版をご覧いただけます。バックナンバーの閲覧もできますので、ぜひご利用ください。

<http://www.y-fukushi.or.jp>

ここから
チェック!!



お知らせ
Notice

やまなしの福祉は年4回の発行です。
次号は12月末発行予定です。

この広報誌の作成費用の一部に
赤い羽根共同募金配分金を充てています。

